

平成31年度
広島県瀬戸内高等学校推薦入学試験問題

国語

(50 分)

..... 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験
番号

--

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

葬式ほどの重要なセレモニーでなくなつて、我々日本人が生活の中でなんとなくしている行動様式はいっぱいある。

たとえば、長い行列に並んだ時、我々日本人はどんなふうだろうか。

実は、それに対する答は、時代^①によって違っている。戦後すぐの頃、食料の配給^{※1}を受けるために行列を作った時と、今、評判のケーキを買うために並んでいる時とでは、態度がかなり違うのだ。

昔は、みんなずい分とげとげしい顔をして行列に並んでいたものだ。押したつて順番が早くなるわけでもないのにぐいぐい押して、あちこちで諍い^{※2}がおこつた。スキあれば少しでも列の前のほうへ割り込みという様子だった。喧嘩^{けんか}が始まつてしまうようなことも珍しくはなかつた。

ところが最近では、行列で前にいる人を押す人をとんと見なくなつた。みんなとても穏やかな顔をして、行儀よく並んでいる。《A》並んでいるのを楽しんでいるかのように、ニコニコしていたりする。特に若い人が、行列に並ぶことを苦痛に思わず、とてもおとなしくルールを守っているようだ。

ここまで私は主に、文化を守る、という角度のことを言ってきたが、守るのではなくて、文化性が I つてくる、という場合もあるようだ。

それには、II、という言葉がピッタリあてはまるのかもしれない。日本が経済的に豊かになるにつれて、インチキをしてでも得をしたという考えがなくなつてきて、行儀よくルールを守るのが普通になってきたのだ。

電車等の乗り物に乗った時の席取りも、無茶をする人をほとんど見かけなくなつた。昔は、みんな目の色を変えて走つて乗り込み、自分及び家族用の席を必死で取つたものだった。私なども子供の頃にはそのフウチョウ^bの中でなんと少しでも席を確保しようと燃えていた。乗り物の扉が開くのを待つてドキドキしていたことを覚えている。

家族で行楽に行く時のお父さんなんて、みんなの席を取らなければ父としての資格がないかの如くに思い込んで、時には窓から列車に乗り込み、両手を大きく広げたり、荷物を置いたりして席を確保していた。そんな人はかりなので、乗り物の扉が開いた瞬間には、一番^③槍の手柄を競う雑兵の群れを見るかのようにだった。

なのに、約四十年くらいたつてみたら、そういう光景は日本にほとんどなくなつたのだ。

家族用の席がどうしてもほしいならば、座席指定券を買えばいいや、という豊かさが実現されたのだ。座席指定のない乗り物で、空席

がないのならば立っていい、と考えるゆとりが生じた。空席に目の色を変えるのはみっともない、という意識が我々日本人の中に育ったのだ。

私は三年ほど前、地下鉄に走り込むように乗ってきて、四、五人分の席をなりふり構わず取った人を見て、近頃には珍しい光景だな、と思った。ところが、やがてそこには仲間が乗り込んできて、すわってしゃべり始めたのをきいていたら、彼らの言葉は日本語ではなかった。どこの国の人だった、というのは書かないでおくが。

日本人も、四十年前はそう^④いうふうだったのだから、他国の人を笑うことはできないと思うのだ。この先、どんな理由でまた席取りに夢中にならないとも限らないのだし。

ただ、この事例から言えることはこうである。文化^⑤には、国ごとの差違もあるし、国ごとの到達レベルの違いというものもあるようだ。その、到達したレベルが高いことを、洗練されている、と言うのだろうか。

日本人はこのところ、経済的豊かさを背景に、かなり洗練されてきたと思う。スポーツ観戦時の、応援のしかたに余裕が出てきたことはすでに述べた。それから、雨の日の電車の中で、濡れた傘をすぐ束ねるようになったのもそういう洗練だと思う。

《B》、外国のレストランなどで人とぶつかりそうになった時、とつさに詫^わびの言葉が出てこないところは、まだ洗練されていない。あれは、英語が話せないというコンプレックスが理由なのだと思うが、つい日本人は、卑屈^{ひくつ}に笑ってその場をごまかそうとするのである。英語など話す必要はなくて、日本語でちゃんと「ごめんなさい」と言え^⑥ばいいと思うのだが。

ところが、海外旅行を楽しんでいるような欧米人は、ごく当然のように「ソーリー」と言う。こんなに何気なく頻繁^{ひんぱん}に詫^わびるのかと驚くほどだ。エレベーターから同時に降りようとした時や、ほんの少し肩が触れただけで、「ソーリー」と言うのだ。

(清水義範著『行儀よくしろ』より)

※1 配給 — 不足しがちな物資の流通を統制し、特定の機関を通じて一定量ずつ売ること。第二次大戦の戦中・戦後に行われた。

※2 諍い — 言い争うこと、喧嘩。

問一 ｛ a・b のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 《A》・《B》に補うべき語として最も適当なものを次のア～オの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア すなわち イ しかし ウ たとえば エ そして オ むしろ

問三 I にあてはまる語を文章中から漢字一字で抜き出して書きなさい。

問四 II にあてはまる語句として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 言葉多き者は品少なし

イ 雨降って地固まる

ウ 衣食足りて礼節を知る

エ 捕らぬ狸の皮算用

問五 — ①「時代によって違っている」とありますが、何が「違っている」のですか。最も分かりやすく述べた語句を文章中から

五字以内で抜き出して書きなさい。

問六 — ②「特に若い人が、行列に並ぶことを苦痛に思わず、とてもおとなしくルールを守っているようだ。」とありますが、それはなぜですか。その理由を説明した次の文の空欄にあてはまる語を、文章中からそれぞれ三字で抜き出して書きなさい。

※現在の日本の社会の中で、イベントに参加したり、座席の権利を購入したりする際などに、経済的な（ i ）や公共の秩序を守る精神的な（ ii ）が生まれてきたから。

問七 — ③「一番槍の手柄を競う雑兵」とは何をたとえたものですか。文章中から十五字以内で抜き出して書きなさい。

問八 — ④「そういうふう」とは、どういう様子を指していますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 海外旅行先の日本人が公共施設内で英語を使わずに、日本語ばかりで話していても平気な様子。

イ 電車に乗る時など、自分や親しい人だけのためになりふり構わず強引に行動する様子。

ウ 少しでも良い席に座ろうと意気込み、ドキドキしているが無理に笑顔を作っている様子。

エ 電車等の座席を強引にとることを嫌がり、空席がなくても納得して立っている様子。

問九

——⑤「文化には国ごとの差違もあるし、国ごとの到達レベルの違いというものもあるようだ。」とありますが、その例としてあてはまらないものは次のうちどれですか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア ゴールの時フラフラになる日本人ランナーを見かけるが、他国ランナーにはそんな姿を見せることを良いと思わない人も多くいること。

イ 周辺諸国の人と比べて現在の日本人が、ルールを守って行列に並べるようになった人が増えてきたといわれること。

ウ 葬式の際、日本では極力静かに振る舞うことが良いとされているが、大声で泣くことこそが美しいとされる文化もあること。

エ 国際的なスポーツイベントの会場で、同じ日本人の中にゴミを放置して帰る人と、ゴミを集めて持って帰る人がいること。

問十

——⑥「ごく当然のように『ソーリー』と発言」がありますが、このことと対照的な態度を表した語句を文章中から十五字以内で抜き出して書きなさい。

問十一

文章中の内容として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 日本人の若者は一昔前の日本人よりも品格が高いため、国際社会の中でも笑われないようになってきたと言える。

イ 国内外での外国人と日本人の行動の違いは、文化的な差違よりも経済的差違による影響が大きく作用している。

ウ 時代の変化によって、日本人の振る舞いのレベルは上がってきたが、まだ他国に見習うべき言動も残されている。

エ 現在の日本人は、多民族国家の人たちより身につけていないマナーがあるので、他国の精神文化を積極的に取り入れるべきである。

【二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

落語家を志したボクは立川流の家元である立川談志に弟子入りをする。修行を重ね立川談春という芸名をもらったボクには、立川志らくという優れた後輩がいた。

部屋に帰ってひとつだけ決めた。心の隅ですつと考えていたことだった。

志らくと友達になろう。

志らくという男は人付き合いが下手で、前座仲間と集まっても自分から口を開くことはない。どちらかと云えば陰気だ。チームワークもバランスも全く気にしない。僕達からすればそこが余計にカチンと来る。《A》、談志は談春に「志らくに教われ」とまで云うのだから、少なくとも現在は談春より秀でている部分が多いのだろう。《B》利用してやろう。兄弟子だの先輩だの云ってる場合ではない。このままのジョウウタイで芸人として志らくと [] すれば、談春は負ける。そう思いたくはないが、師である立川談志は、はっきりそう云っている。

②「負けるケンカはするな」が我が家の家訓で、それは相手から逃げるという意味ではない。勝てる、最低でも五分の戦いができるようになるまでは相手を観察し、研究する。そのためには格好つけてる暇はない。至近距離まで飛び込んでみよう。志らくはどこが長所で、談春に足りないものは何なのか。志らくの短所はどこで、どう切り込めば勝てるのか。弟弟子に向かつて使う言葉ではないが、※一めんじゆうくはいい面従腹背でよい。同じ談志の弟子で同世代、キャリアも同じくらいなら、いつかはきつと勝負する時が来る。その時勝つために、前座時代の今は歯を喰いしばってでも志らくという男を知っておこう。

翌日、談春は談志と書齋で二人きりになった。突然談志が、

③「お前に嫉妬とは何かを教えてやる」

と云った。

「己が努力、行動を起こさずに対象となる人間の弱味を口であげつらつて、自分のレベルまで下げる行為、これを嫉妬と云うんです。一緒にになって同意してくれる仲間がいれば更に自分は安定する。本来ならば相手に並び、抜くための行動、生活を送ればそれで解決するんだ。しかし人間はなかなかそれができない。嫉妬している方が楽だからな。芸人なんぞそういう輩の固まりみたいなもんだ。だがそんなことで状況は何も変わらない。よく覚えとけ。現実⑥は正解なんだ。時代が悪いの、世の中がおかしいと云ったところで仕方ない。現実⑦は事実だ。そして現状を理解、分析してみる。そこにはきつと、何故そうなったかという原因があるんだ。現状を認識して把握したら処理すりゃいいんだ。その行動を起こせない奴を俺の基準で馬鹿と云う」

志らくとつるむようになった。

付き合ってみて驚いたのは、彼の落語に対する愛情の深さだ。

「僕は金原亭馬生師匠が好きなんです。大学の国文学のキョウウジユがキンバラテイマウって読んで馬鹿馬鹿しくなって大学辞めました」
「本当は馬生の弟子になりたかったんですが、亡くなってしまいました。その夜、池袋演芸場に行ったら談志が出ていて馬生師匠の思い出を語ってくれて、それが素晴らしかったです。勿論落語も凄いですし、弟子になるならこの人しかいないと思いました」
「僕の夢は、そんなにお客の入っていない寄席の昼席でボソボソ落語をしゃべることなんです」
それにしちゃ現実にはやってるのが違う。

※1 面従腹背 — 表面上は従っているように見せて、心の中では反抗すること。

(立川談春 『赤めだか』より)

問一 } a ~ c のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなに直してそれぞれ書きなさい。

問二 《A》・《B》に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

《A》 ア またも イ しかし ウ そのうえ エ まさに
《B》 ア しかしながら イ もしかしたら ウ よく考えたら エ だったら

問三 にあてはまる語を文章中から三字で抜き出して書きなさい。

問四 — ①「陰気」の対義語を漢字二字で書きなさい。

問五 — ②「負けるケンカはするな」とありますが、この言葉にはどのような意味が込められていますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 勝ったとしても成果が少なく、相手を傷つけるだけならそんな勝負はするなという意味。

イ 戦い自体を禁止する意味ではなく、勝てるような状況を作ってから戦えという意味。

ウ 戦っても勝てない相手とは最初から絶対に戦わず、勝てる相手と戦えという意味。

エ 得るものがあれば戦っても良いが、勝っても得るものが少ない戦いはするなという意味。

問六 — ③「お前に嫉妬とは何かを教えてやる」とありますが、なぜ談志は談春に「嫉妬とは何か」ということを教えたのですか。

その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 談春が志らくの才能に嫉妬していることを知り、このままでは談春が志らくに危害を加えるのではないかと不安に思ったから。

イ 現時点で談春より志らくのほうが優れた落語家であることは事実であるが、談春がそれを認めずに嫉妬するようになっては良くないと考えたから。

ウ 世の中の多くの人間は自分が嫉妬していると気づいておらず、嫉妬というものがどういものかわかっていないと感じたから。

エ 芸人の多くが誰かに嫉妬して努力をせず売れずに終わつたため、弟子の談春にはそうなつてほしくないと思つたから。

問七 ——— ④「それ」が指すものは何ですか。文章中の語句を用いて二十五字以内で書きなさい。

問八 ——— ⑤「そんなこと」が指すものは何ですか。文章中の語句を用いて十字以内で書きなさい。

問九 ——— ⑥「現実には正解なんだ。」とありますが、この言葉にはどのような気持ちが含まれていますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア この世でおかしいと思うことや筋が通っていないと思うことでも、いま実際に起こっていることが正しいということを理解し、行動をすることが大切であるという気持ち。

イ この世で起こることには全て原因とその対策法もあり、それを誰かに教わり続けながら行動をしていくことが大切であるという気持ち。

ウ この世で起こることは全て運命によって決められており、その運命に従つて無駄なことはするべきではないという気持ち。

エ この世で起こることには全て答えがあるので、正解のみを求めて効率的に行動していくことが大切であるという気持ち。

問十 ——— ⑦「現状を認識して把握したら処理すりゃいいんだ。」とありますが、談春にとつて、i「現状を認識して把握」すること、ii「処理」することはそれぞれどのようなことになりますか。最も適当なものを次のア～カの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

ア 現時点では、談志は自分には超えられない存在であると認めること。

イ 現時点では、自分がつまらない落語家であると認めること。

ウ 現時点では、志らくのほうが自分より落語家として上であると認めること。

エ いつか師匠である談志を超えられるようにひたすら落語の腕前を上げること。

オ いつか売れっ子の落語家になれるように実力がある志らくの芸をよく学ぶこと。

カ いずれ勝負した時に勝てるように志らくの長所と短所を研究すること。

問十一 「志らく」の性格を表現した語句を、解答欄にあうように文章中から二十字以内で抜き出して書きなさい。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、春の頃、ある老女（Ⅱ女）が、子供に石をぶつけられてけがをした雀を見つけた。老女は急いで雀を手に取り、えさをやりたり薬を飲ませたりして世話をした。

かくて月比つきひらよくつくろへば、やうやう躍りあ歩く。雀の心にも、かく養ひ生けたるをいみじくうれしと思ひけり。あからさまにちよつとよそへこうして何か月も。

物へ行くとても、人に、「この雀見よ。物食はせよ」など言ひ置きければ、子孫こまなど、「あはれ、なんでふ雀飼はるる」とて憎み笑へども、出かける時どうしても。

「さはれ、いとほしければ」とて飼ふ程に、飛ぶ程になりけり。「今はよも鳥からすに取られじ」とて、外ほかに出でて手にすゑて、「飛びやする、跳ね歩けるようになった」

見ん」とて、ささげたれば、ふらふらと飛びて往ぬ。女、「多くの月比日比ひらひら、暮るればをさめ、明くれば物食はせ習ひて、あはれや飛び「飛べるだろうか、試してみよう」

びて往ぬるよ。また来やすると見ん」など、つれづれに思ひていひければ、人に笑はれけり。また帰って来るかどうかみていよう

（『宇治拾遺物語』を一部改題）

問一 〰〰〰の読みを現代かなづかいで書きなさい。

問二 〰〰〰①の文章中の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- ア ようやく イ 上手に ウ とうとう エ しだいに

問三 〰〰〰②「いみじくうれしうれしと思ひけり」とありますが、どのような気持ちを表していますか。最も適当なものを次のア～エの中から選び、記号を書きなさい。

ア 老女に助けられ回復したことを喜ぶ雀の気持ち。

イ 育ててくれた老女を親のように思い感謝する雀の気持ち。

ウ 育てた雀が立派に成長したことを喜ぶ老女の気持ち。

エ 助けた雀に感謝されたことを喜ぶ老女の気持ち。

問四

——③「よも鳥に取られじ」の文章中の意味として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア きつと鳥に捕られるだろう

イ まさか鳥には捕られないだろう

ウ もしかすると鳥に捕られるかもしれない

エ まさか鳥と取り違えられないだろう

問五

——④「明くれば」の主語を漢字一字で書きなさい。

問六

——⑤「つれづれに思ひて」とありますが、この時の老女の気持ちとして最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 長い間世話をしてきた雀が、成長して手がかからなくなってひまになったことを不満に思う気持ち。

イ 長い間世話をしてきた雀が、まだ回復していないのに飛び去ってしまったことを心配する気持ち。

ウ 長い間世話をしてきた雀が、成長して美しく飛び立った姿を見てしみじみと感動する気持ち。

エ 長い間世話をしてきた雀が、元気になって飛び去ってしまったことをもの寂しく思う気持ち。